

四半期報告書

(第116期第2四半期)

自 平成27年7月1日

至 平成27年9月30日

芦森工業株式会社

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	7

2 役員の状況

	7
--	---

第4 経理の状況

	8
--	---

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13

2 その他

	18
--	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

	19
--	----

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月10日
【四半期会計期間】	第116期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	芦森工業株式会社
【英訳名】	Ashimori Industry Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 瀬野 三郎
【本店の所在の場所】	大阪市西区北堀江3丁目10番18号
【電話番号】	(06) 6533-9253 (直通)
【事務連絡者氏名】	経理部長 嘉根 裕樹
【最寄りの連絡場所】	大阪市西区北堀江3丁目10番18号
【電話番号】	(06) 6533-9253 (直通)
【事務連絡者氏名】	経理部長 嘉根 裕樹
【縦覧に供する場所】	芦森工業株式会社東京支社 (東京都千代田区岩本町2丁目6番9号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第115期 第2四半期 連結累計期間	第116期 第2四半期 連結累計期間	第115期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (百万円)	22,515	24,049	48,067
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	△140	848	1,306
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 (△) (百万円)	△196	693	1,470
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	△179	665	2,111
純資産額 (百万円)	10,547	13,350	12,837
総資産額 (百万円)	34,195	36,400	36,935
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は1株当たり四半期純 損失金額 (△) (円)	△3.25	11.45	24.28
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	30.8	36.6	34.7
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	△550	1,046	△1,444
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	△671	△814	△594
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	81	220	615
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	2,632	2,916	2,503

回次	第115期 第2四半期 連結会計期間	第116期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又 は1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△2.24	7.80

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 第115期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在しないため、記載していない。
4. 第115期及び第116期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していない。
5. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」に、「四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期純損失」としている。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、当社は平成26年9月12日付で締結したシンジケートローン契約が平成27年9月11日に契約期間満了となった。

当第2四半期連結会計期間において、当社は運転資金の安定的な調達を目的として、平成27年9月30日付にて株式会社三菱東京UFJ銀行とコミットメントライン契約を締結している。当該契約の概要は次のとおりである。

(1) 借入人	芦森工業株式会社
(2) 借入先	株式会社三菱東京UFJ銀行
(3) 借入極度額	50億円
(4) 契約日	平成27年9月30日
(5) コミットメント期間	平成27年9月30日～平成28年9月30日
(6) 財務制限条項	①各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を、平成27年3月に終了する決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額の75%の金額以上に維持すること。 ②各年度の決算期にかかる連結の損益計算書上の営業損益及び経常損益に関して、それぞれ営業損失及び経常損失を計上しないこと。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものである。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果などにより景気は回復傾向が見られるものの、円安の進行にともなう輸入物価の上昇及び新興国経済の減速への警戒感、金融資本市場の変動等、先行き不透明な状況が続いた。

このような情勢のなかで当社グループは、グローバルでの受注拡大や生産効率向上など、利益確保に向けた諸施策を実施し、業績の向上に努めてきた。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高240億49百万円と、前第2四半期連結累計期間に比べ6.8%の増収となった。

損益面については、主として自動車安全部品事業における国内外拠点及び機能製品事業の防災関連での業績改善などの効果等により、営業利益7億37百万円（前第2四半期連結累計期間は営業損失12百万円）、経常利益8億48百万円（前第2四半期連結累計期間は経常損失1億40百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益6億93百万円（前第2四半期連結累計期間は親会社株主に帰属する四半期純損失1億96百万円）で、大幅な増益となった。

セグメント別の概況は次のとおりである。

当社は、事業本部制を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「自動車安全部品事業」「機能製品事業」の2つを報告セグメントとしている。

①自動車安全部品事業

シートベルト・エアバッグについては、国内において受注車種の減産等の影響を受けたが、海外において新規車種の立ち上げ等により、売上が増加した。ステアリングホイールは、国内において受注車種が増加したことにより、売上が増加した。内装品その他については、海外も含め順調に推移した結果、売上が増加した。

また、昨年来取り組んできた海外拠点での生産効率向上や品質改善などの効果により、メキシコ・タイ・韓国等の現地法人の業績が改善した。

この結果、当事業の売上高186億68百万円と、前第2四半期連結累計期間に比べ7.8%増収となり、営業利益9億62百万円と、前第2四半期連結累計期間に比べ大幅な増益（361.0%増益）となった。

②機能製品事業

ライフライン(下水道・上水道・ガス等)の管更生分野(パルテム関連)において公共投資が弱い動きのため受注時期が遅れたことや緊急排水ホースの需要が減少したことにより、売上は減少した。

産業資材関連は、物流省力化関連商品の売上が増加したものの、高機能資材織物(タイミングベルト関連)が国内外の需要低迷により、売上は微減となった。

防災関連は、大口径送水ホースが好調に推移し、売上は大幅に増加した。

この結果、当事業の売上高53億76百万円と、前第2四半期連結累計期間に比べ3.5%増収となり、営業利益3億69百万円と、前第2四半期連結累計期間に比べ14.5%増益となった。

③その他事業

当事業の売上高は5百万円、営業利益は0百万円と、前第2四半期連結累計期間に比べ横這いとなった。

(2) キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動による資金の収入は、前第2四半期連結累計期間に比べ、税金等調整前四半期純利益8億52百万円、減価償却費6億67百万円、売上債権の減少額14億80百万円、仕入債務の減少額12億44百万円等により、15億97百万円増加して10億46百万円となった。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動による資金の支出は、前第2四半期連結累計期間に比べ、有形固定資産の取得による支出8億63百万円等により、1億43百万円増加して8億14百万円となった。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動による資金の収入は、前第2四半期連結累計期間に比べ、長期借入れによる収入19億50百万円、短期借入金の純減額14億70百万円、配当金の支払額1億51百万円等により、1億38百万円増加して2億20百万円となった。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前第2四半期連結累計期間に比べ、2億83百万円増加して29億16百万円となった。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は、4億65百万円である。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	220,000,000
計	220,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	60,569,390	60,569,390	㈱東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	60,569,390	60,569,390	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成27年7月1日 ～ 平成27年9月30日	—	60,569,390	—	8,388	—	1,631

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
日本毛織株式会社	神戸市中央区明石町47番地	17,035	28.12
芦森工業取引先持株会	大阪市西区北堀江3丁目10-18	2,715	4.48
芦森工業従業員持株会	大阪市西区北堀江3丁目10-18	1,644	2.72
山内 正義	千葉県浦安市	1,336	2.21
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行 株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013 U. S. A. (東京都新宿区6丁目27-30)	1,036	1.71
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	904	1.49
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	745	1.23
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	736	1.22
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	670	1.11
東レ株式会社	東京都中央区日本橋室町2丁目1-1	595	0.98
計	—	27,417	45.27

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりである。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 745千株

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 736千株

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 31,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 59,954,000	59,954	—
単元未満株式	普通株式 584,390	—	—
発行済株式総数	60,569,390	—	—
総株主の議決権	—	59,954	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれている。また、「議決権の数 (個)」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれている。

② 【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
芦森工業株式会社	大阪市西区北堀江3丁目10-18	31,000	—	31,000	0.05
計	—	31,000	—	31,000	0.05

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はない。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,678	3,019
受取手形及び売掛金	13,034	11,511
商品及び製品	1,851	2,027
仕掛品	2,351	2,501
原材料及び貯蔵品	2,913	2,927
繰延税金資産	347	360
その他	935	1,196
貸倒引当金	△45	△43
流動資産合計	24,066	23,500
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1 3,703	3,743
機械装置及び運搬具（純額）	2,612	2,502
工具、器具及び備品（純額）	1,111	1,134
土地	※1 2,926	3,133
リース資産（純額）	43	54
建設仮勘定	368	243
有形固定資産合計	10,765	10,811
無形固定資産		
無形固定資産	247	247
投資その他の資産		
投資有価証券	1,212	1,213
長期貸付金	6	6
繰延税金資産	512	466
その他	148	177
貸倒引当金	△23	△23
投資その他の資産合計	1,855	1,840
固定資産合計	12,869	12,899
資産合計	36,935	36,400

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,203	5,117
電子記録債務	3,605	3,387
短期借入金	※1,※2 7,180	※3 5,710
1年内返済予定の長期借入金	166	524
リース債務	23	22
未払金	962	875
未払法人税等	159	112
未払消費税等	99	30
賞与引当金	350	517
製品保証引当金	255	229
その他の引当金	13	22
その他	922	900
流動負債合計	19,941	17,452
固定負債		
社債	2,000	2,000
長期借入金	251	1,751
リース債務	39	47
役員退職慰労引当金	34	23
退職給付に係る負債	1,791	1,734
資産除去債務	29	29
その他	10	10
固定負債合計	4,157	5,597
負債合計	24,098	23,050
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,388	8,388
資本剰余金	1,632	1,632
利益剰余金	2,097	2,639
自己株式	△4	△5
株主資本合計	12,114	12,655
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	455	452
繰延ヘッジ損益	△2	16
為替換算調整勘定	327	270
退職給付に係る調整累計額	△84	△73
その他の包括利益累計額合計	694	665
非支配株主持分	27	29
純資産合計	12,837	13,350
負債純資産合計	36,935	36,400

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	22,515	24,049
売上原価	20,297	20,886
売上総利益	2,217	3,162
販売費及び一般管理費	※ 2,229	※ 2,425
営業利益又は営業損失(△)	△12	737
営業外収益		
受取利息	11	14
受取配当金	18	10
受取賃貸料	11	11
為替差益	—	83
貸倒引当金戻入額	0	2
助成金収入	1	2
その他	36	33
営業外収益合計	79	157
営業外費用		
支払利息	36	26
賃貸収入原価	5	5
為替差損	22	—
シンジケートローン手数料	112	5
投資事業組合運用損	3	1
その他	28	9
営業外費用合計	208	47
経常利益又は経常損失(△)	△140	848
特別利益		
固定資産売却益	4	5
補助金収入	10	9
製品保証引当金戻入額	26	—
特別利益合計	41	15
特別損失		
固定資産処分損	11	10
特別損失合計	11	10
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△110	852
法人税、住民税及び事業税	77	139
法人税等調整額	5	18
法人税等合計	83	157
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△194	695
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	2
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△196	693

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△194	695
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	175	△3
繰延ヘッジ損益	—	18
為替換算調整勘定	△171	△56
退職給付に係る調整額	10	11
その他の包括利益合計	14	△29
四半期包括利益	△179	665
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△181	663
非支配株主に係る四半期包括利益	2	1

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△110	852
減価償却費	663	667
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	36	△37
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△54	△10
防災製品補償損失引当金の増減額(△は減少)	△54	—
製品保証引当金の増減額(△は減少)	△93	△26
支払利息	36	26
受取利息及び受取配当金	△30	△24
有形固定資産売却損益(△は益)	△4	△5
有形固定資産処分損益(△は益)	11	10
売上債権の増減額(△は増加)	871	1,480
たな卸資産の増減額(△は増加)	△795	△370
仕入債務の増減額(△は減少)	△58	△1,244
未払金の増減額(△は減少)	△420	△22
その他	△407	△115
小計	△410	1,180
利息及び配当金の受取額	30	27
利息の支払額	△36	△29
法人税等の還付額	8	16
法人税等の支払額	△142	△148
営業活動によるキャッシュ・フロー	△550	1,046
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	133	170
定期預金の預入による支出	△143	△96
有形固定資産の取得による支出	△640	△863
有形固定資産の売却による収入	13	32
無形固定資産の取得による支出	△9	△25
投資有価証券の取得による支出	△5	△6
貸付金の回収による収入	0	1
その他	△20	△27
投資活動によるキャッシュ・フロー	△671	△814
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100	△1,470
長期借入れによる収入	—	1,950
長期借入金の返済による支出	—	△91
自己株式の取得による支出	△1	△1
自己株式の処分による収入	—	0
リース債務の返済による支出	△16	△15
配当金の支払額	—	△151
財務活動によるキャッシュ・フロー	81	220
現金及び現金同等物に係る換算差額	△35	△39
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,176	413
現金及び現金同等物の期首残高	3,808	2,503
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,632	※ 2,916

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)-及び
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)
等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更している。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更している。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っている。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っている。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用している。

これによる損益に与える影響はない。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産及び担保に係る債務
工場財団抵当に供している資産

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
建物及び構築物	1,147百万円	—百万円
土地	2	—
計	1,149	—

担保に係る債務

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
短期借入金	7,100百万円	—百万円

※2 前連結会計年度について、当社は、運転資金の安定的な調達を行うため、株式会社三菱東京UFJ銀行をはじめとする取引金融機関6行とシンジケートローン契約（コミットメント期間平成26年9月18日～平成27年9月11日）を締結している。

この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
シンジケートローン契約総額	10,000百万円	—百万円
借入実行残高	7,100	—
差引額	2,900	—

なお、当該シンジケートローンについて、下記の財務制限条項が付されている。

前連結会計年度

- ①各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を、平成26年3月に終了する決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額の75%の金額以上に維持すること。
- ②各年度の決算期にかかる連結の損益計算書上の営業損益及び経常損益に関して、それぞれ営業損失及び経常損失を計上しないこと。
- ③発効日、コミットメント開始日及び個別貸付の実行時点毎において、平成25年8月7日付プレスリリースに関するリコール対応費用が27億90百万円（製品保証引当金として繰入済みの25億37百万円に110%を乗じた金額）を超えないこと。

※3 当第2四半期連結会計期間について、当社は、運転資金の安定的な調達を行うため、株式会社三菱東京UFJ銀行とコミットメントライン契約（コミットメント期間平成27年9月30日～平成28年9月30日）を締結している。
この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
コミットメントライン契約総額	—百万円	5,000百万円
借入実行残高	—	1,700
差引額	—	3,300

なお、当該コミットメントライン契約について、下記の財務制限条項が付されている。

当第2四半期連結会計期間

- ①各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を、平成27年3月に終了する決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額の75%の金額以上に維持すること。
- ②各年度の決算期にかかる連結の損益計算書上の営業損益及び経常損益に関して、それぞれ営業損失及び経常損失を計上しないこと。

4 保証債務

次の取引に対し保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
従業員（住宅資金借入）	0百万円	0百万円

（四半期連結損益計算書関係）

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
荷造運送費	575百万円	574百万円
給料賃金手当	552	607
賞与引当金繰入額	91	96
退職給付費用	30	28

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	2,787百万円	3,019百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△155	△103
現金及び現金同等物	2,632	2,916

（株主資本等関係）

I 前第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

株主資本の金額の著しい変動

当第2四半期連結会計期間末の株主資本の金額は、前連結会計年度末に比較して著しい変動がないが、平成26年6月27日開催の第114回定時株主総会決議に基づき、資本準備金669百万円を減少し、その他資本剰余金に振り替えるとともにその他資本剰余金のうち1,383百万円を繰越利益剰余金に振り替え、欠損てん補した。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が1,383百万円減少し、利益剰余金が1,383百万円増加した。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	151	2.5	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	自動車 安全部品 事業	機能製品 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	17,312	5,195	22,508	6	22,515	—	22,515
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	17,312	5,195	22,508	6	22,515	—	22,515
セグメント利益又は 損失 (△)	208	322	531	2	533	△545	△12

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業を含んでいる。
2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△545百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用である。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。
3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っている。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	自動車 安全部品 事業	機能製品 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	18,668	5,376	24,044	5	24,049	—	24,049
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	18,668	5,376	24,044	5	24,049	—	24,049
セグメント利益	962	369	1,332	0	1,332	△594	737

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業を含んでいる。
2. セグメント利益の調整額△594百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用である。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額 (△)	△3円25銭	11円45銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (△) (百万円)	△196	693
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損 失金額 (△) (百万円)	△196	693
普通株式の期中平均株式数 (千株)	60,558	60,540

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、前第 2 四半期連結累計期間は 1 株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在しないため、当第 2 四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、記載していない。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月10日

芦森工業株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 礼治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴崎 美帆 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている芦森工業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、芦森工業株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月10日
【会社名】	芦森工業株式会社
【英訳名】	Ashimori Industry Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 瀬野 三郎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市西区北堀江3丁目10番18号
【縦覧に供する場所】	芦森工業株式会社東京支社 (東京都千代田区岩本町2丁目6番9号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長 瀬野 三郎 は、当社の第116期第2四半期（自平成27年7月1日 至平成27年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。